

# 受益者の声

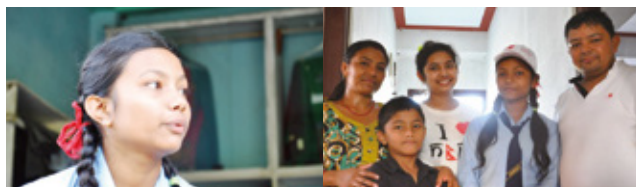
interview  
1



**ネパール**  
「トイレができたことによって、  
病気にかかることが少なくなりました。」

ロクシャ・バリヤールさん(10年生 14歳)

タナフン郡にあるシュリー・チャンディ・デビ・ラストリヤ中等学校に通うロクシャさん。現在、学校で青少年赤十字(JRC)委員長を務めています。ロクシャさんが通う学校では、事業終了後もJRC活動が活発に行われており、事業で支援したトイレの継続的な利用や、清掃活動、衛生教育の実施に加えて、2015年に発生したネパール地震被害者のための募金活動や、貧困層の生徒への制服支援、ユースのためのリーダーシップ・トレーニングの計画・実施などを行っています。学校の衛生環境とともに、コミュニティの衛生環境も整いつつあり、ロクシャさんの家庭の環境も、事業によって改善されました。定期的に掃除も行っており、常に清潔な状態を維持しています。



interview  
2



**モンゴル**  
「世界各国の困っている  
子供たちのために働きたい。」

ウランザヤさん(8年生 14歳)

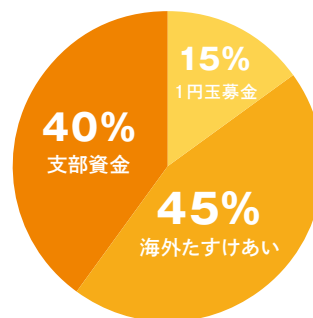
6年生の時からピアエデュケーターとして同学年や下級生に公衆衛生の知識や救急法を広めています。ウランザヤさんは事業の研修で災害時の行動、救急法、手洗いと公衆衛生など多岐に渡る知識と技術を学びました。「事業のおかげで学校のトイレが整備され、研修で公衆衛生についての知識も高まり、清潔に暮らせるようになってとてもうれしいです。日本赤十字社の支援に感謝します。」とウランザヤさん。事業の実施により衛生や防災の様々な知識や赤十字の活動についての理解が深まりました。



## 海外での青少年赤十字支援事業

青少年赤十字の実践目標のひとつ「国際理解・親善」の一環として、青少年赤十字メンバーが集めた青少年赤十字活動資金(通称:1円玉募金)を財源の一部とし、海外の青少年赤十字活動、学校の教育・衛生環境の改善等の支援を目的とした青少年赤十字教育等支援事業を平成16年から実施しました。第4次3カ年の事業は、ネパール、モンゴル、バングラデシュの3カ国を対象に、平成25年1月1日から平成27年12月31日まで実施されました。

### 第4次3カ年事業の財源内訳



- 1円玉募金の収入は年間平均約570万円
- 毎年12月1日から25日間NHKと協同で実施している海外支援の寄付キャンペーンで集められる資金
- 海外の子供たちの教育環境の改善や、学校を通じた保健衛生分野の社会ニーズに応えるために、個人や企業から日本赤十字社各都道府県支部あてに寄付された資金

※本データは、平成24~26年度に送金した金額の内訳です。

今後も1円玉募金で得られた活動資金を通じて、アジアの青少年赤十字メンバーが直面している課題の解決に向けて取り組んでいきます。

日本赤十字社

〒105-8521 東京都港区芝大門1-1-3

TEL: 03-3437-7082 FAX: 03-3432-5507

<http://www.jrc.or.jp/>



途上国の子どもたちへ、  
私たちができること

 **日本赤十字社**  
Japanese Red Cross Society

人間を救うのは、人間だ。



# 1円玉募金のゆくえ inネパール International Friendship Project



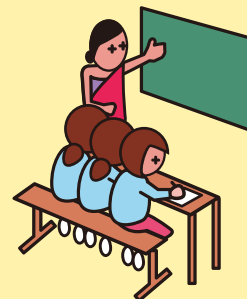
日本国内の学校で  
1円玉募金を実施



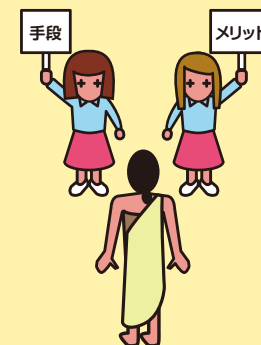
募金の使い道を  
現地のニーズに応じて工夫



正しい知識を学び、  
学校内で広める



子どもから家庭や  
地域コミュニティへ発信



日本国内の青少年赤十字メンバーがお小遣いを  
俵約するなどして集めたお金を日本赤十字社を通じて  
海外に送金します。



みんなが集めたお金を1円玉募金として寄付！

日本から受け取った募金をもとに現地の  
赤十字スタッフが学校や地域の人々と話し  
合い、「学校や地域に何が必要か」を考え  
ます。特に各地で改善が急がれる、学校の  
公衆衛生環境や教育面の支援を重視して  
います。



学校に着いたら、まず手洗い

活動は、トイレや水道等の整備といった  
ハード面だけに留まりません。講習を行い、  
手洗いの大切さなど衛生に関する知識を  
子どもたちが身につけ、同世代に対して広  
めるといったソフト面にも力を入れています。



授業で衛生に関する知識を学んでいます

学んだ知識は、子どもたちの家族や地域の人たちにも  
伝えます。「地域のトイレマップ」を作り、トイレの普及  
を啓蒙するといった取り組みも。活動は表彰され、子  
どもたちも高い意識を持って取り組んでいます。



子どもたちが作成した「地域のトイレマップ」を確認する赤十字スタッフ。  
このマップに基づいて子どもたちは家庭訪問を行っています！

## 3年間の成果



- 事業開始前と比較して下痢症の発生割合が減少。78.2%から20.9%へ。
- 住民に衛生知識を普及し、事業対象の村にあるすべての家庭にトイレを整備。



- 国家危機管理庁、地域住民と協同で、効果的な避難訓練を実施。
- 健康・公衆衛生の知識を持つ400名のピアエデュケーター<sup>※</sup>を養成し、ピアからピアへの手洗い慣行や公衆衛生教育を実施した結果、8,440名の児童生徒に知識を伝達。

※ 同世代の子どもに対して、正しい知識や技術を発信する生徒



- 各対象校で選ばれた10名の赤十字ユースリーダーに、救急法の講習を毎年実施。リーダーが自校の生徒にフィードバックして、合計150校、総勢111,199名の生徒に対して救急法の知識・技術を伝達。